

町並み散策ばら



① 大ケヤキ(県指定)

海老名の大ケヤキの名で親しまれている樹齢約570年と推定される巨木です。相模湾が深く内陸に入り込み、入り江に漁師が船をつなぐのに植えたケヤキが根付き巨木になりました。



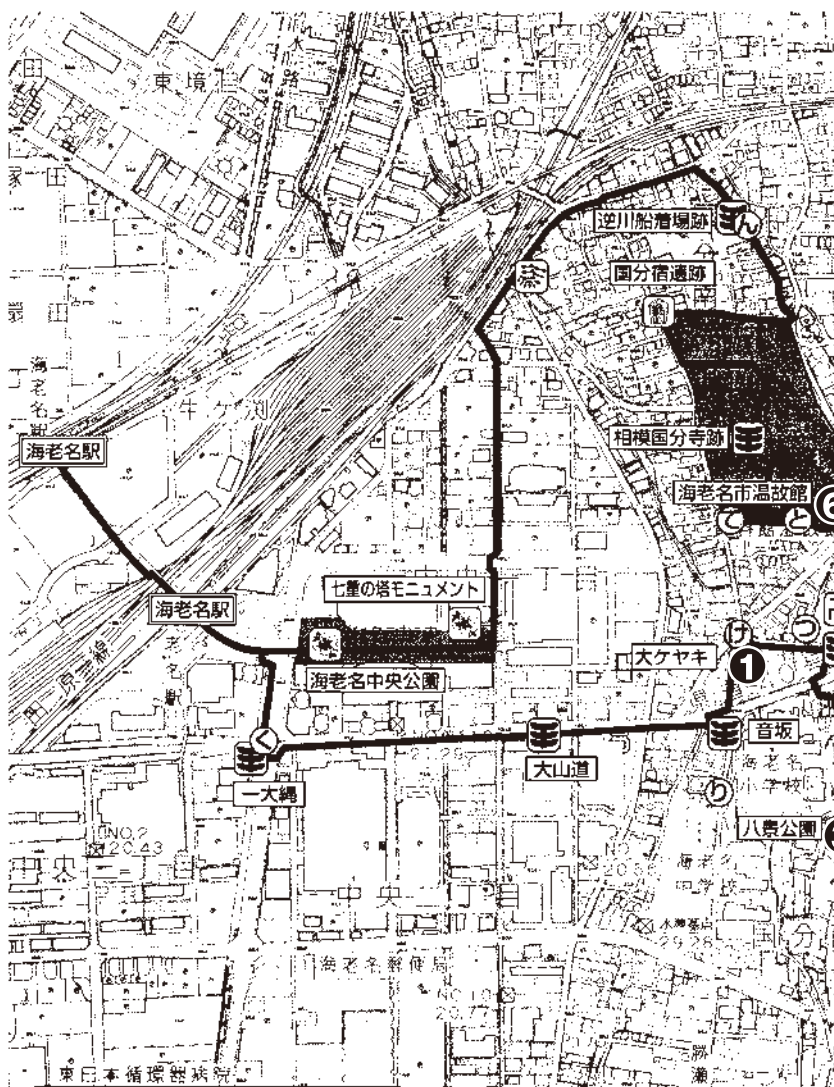
② 国分寺

天平13年(741年)のいわゆる「国分寺建立の」によって創建された相模国分寺の法灯を継いでいる市内屈指の古刹です。平安時代中頃に史跡相模国分寺跡の場所から上の台に移り、江戸時代頃に現在の位置に移ったと考えられています。



③ 国分八景公園

公園の名前は、この近くにあった龍峰寺に元禄年間に滞在した鉄牛和尚が、ここから見える市街地、大山、丹沢の景色を龍峰八景と名付けたことが由来とされています。



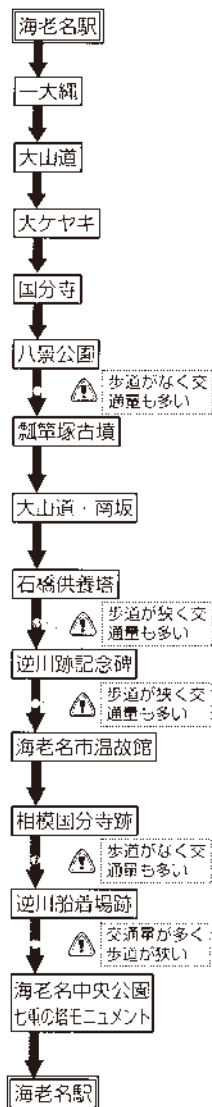
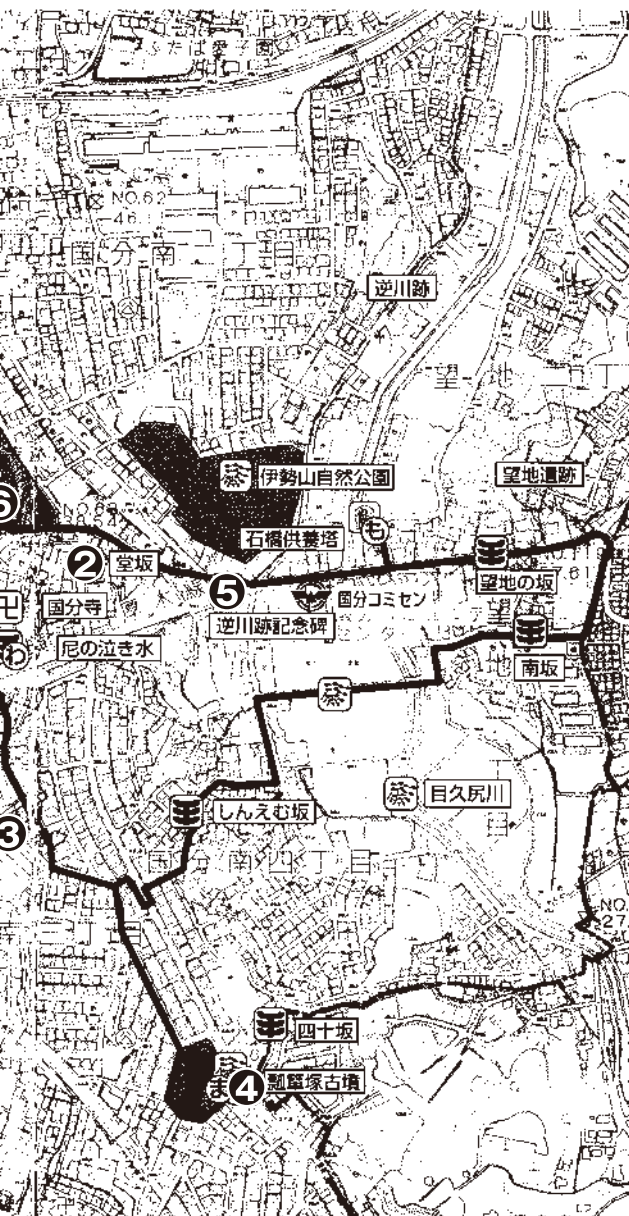
海老名の古代史を歩く(国分南・望地地区)

約5.2km 約120分 8,700歩

●○コース概要○●

国分寺跡と国分寺、市内最大の古墳である上り下りが多いのでゆっくりと歩くことで
(各史跡には海老名郷土カルタの歌石塔が

～海老名の古代史を歩く～



II 一ス 32



市内最大の前方後円墳で、発掘調査によると全長71m以上、後円部の高さ約7mと推定されています。瓢箪塚古墳はその大きさから、上浜田古墳群の盟主の墓と考えられています。



逆川跡は人工の水路と言われ、目久尻川の水を取り入れ伊勢山の南側を回り、国分の台地を経て国分尼寺の小谷戸から海老名耕地に流れていました。



温故館は、相模国分寺跡が国定史跡となった大正10年（1921年）に海老名小学校の校庭に建てられた遺物陳列館がその始まりで、建物は大正7年（1918年）に海老名村役場として建築され、当時よく採用された郡役所様式により作られました。

(作成：海老名支部 杉崎雅治)

瓢箪塚古墳を巡る。

す。また交通量が多いので車に注意。

建っています。探して読み比べて下さい。)